

MOVING

PROJECT

動くオブジェ展

| 吉田 正人

| Pre-ex-sight NAOMI ITO × TAIZO MATSUMURA

1992. 10 / 3^土～13^火 (8日は休館)

10:00AM～6:30PM (入館は5:00PMまで)

入場無料

主催・会場 財団法人品川文化振興事業団 ○美術館



吉田 正人

MASATO YOSHIDA

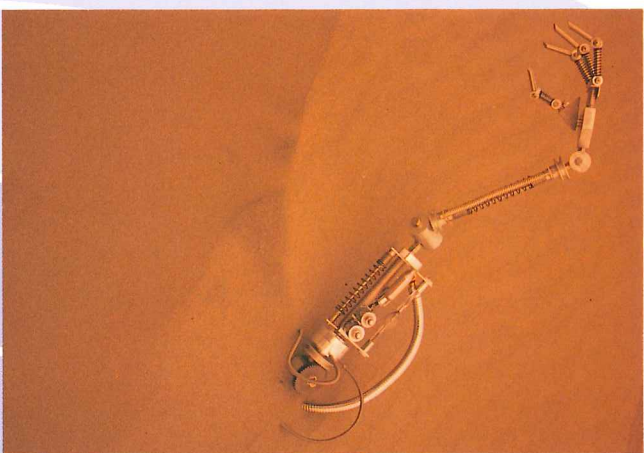


プロフィール

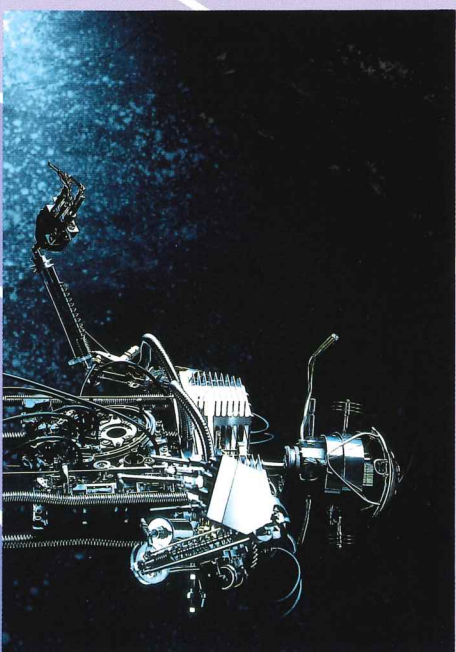
- 1957 福島県生まれ。
- 1978～84 クラフツワザサイナーとして、主に百貨店等の広告制作に携わる。
- 1979～80 ケニヤ・パキスタンの「ナバー」誌字。
- 1985 日本イラストレーション展特別賞
- 1987 オフショアTOKYO展奨励賞
- 1988 六本木のギリ・ビヤホール「ハートランド」企画展出品
- 1990 日本イラストレーション展のカタログ展招待出品
- 「リ」エヌ・ロー・アートライフ展出品
- 1991 東京電カ・オラステイナスギャラリー「個展 銅壁」にて、景代彫刻シリーズ出品
- 1992 ドイツ・カッセル市で開催の「地文化との遭遇展」(ENCOUNTERING THE OTHERS)に出品
- 岐阜市主催「あかりのオフショア」展、奨励賞



▲Ji-danda (撮影/島 勇)



▲Stainless steel hand (撮影/島 勇)



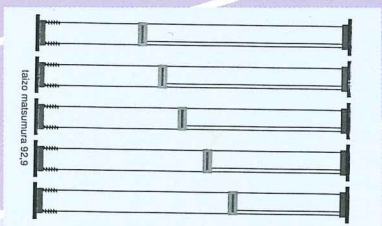
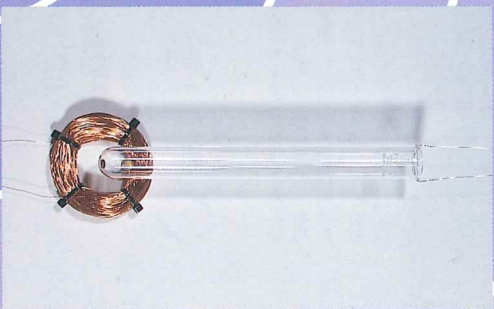
▲Stainless steel man (撮影/鹿山 慎一)

- A 「今度はヒガタ多いよね。何で？」
B 「ステンレススチール・ロボの逆襲だからね。」
- A 「何で逆襲なの？」
B 「楽しんでるんじゃないのかい？ 去年の個展で。」
- A 「ふ～ん、けっこう楽しいのをやめているわけ？」
B 「楽しんでるんじゃないよ。」
- A 「つまらない人じゃない？」
B 「分かってるけども5人いた。ロツカーのC、石井とか、小野田とか、メカニックサイナーとかね。」
- A 「で、逆襲なんだ？」
B 「うん。今度はそのHだよね。」
- A 「でも、下ネタとかでHだよね。」
B 「たぬだね～。ホツツと言っただけはいいな～。」
- A 「ホツツ？」
B 「ソツクはね。」
- A 「あ、そこから？ たからサイバースーツなんだから。」
B 「サイバースーツ・スツ墓村！」
- A 「ふ～ん。サイバースーツで、動いたの止まっちゃうけど、機材はAの。」
B 「お言われると身も蓋もないけど、自然の力を利用してからだね。」
- A 「人為的でないって事？」
B 「目に見えない宇宙や地面の放射線をキヤッチして、磁石を利用してからだね。」
- A 「最近よく言われている環境問題のわけ？」
B 「まあ、それもあるけどね。それに、動きが予測できない方が見ていておもしろい。」
- A 「ロボ、BABABEロボ、INOKIはカマロレス好きなの？」
B 「ロボも好きかね。見ていて強さでいねえ。ロボは世界を制御しているもんね。」
- A 「世界制覇を夢みてるわけ？」
B 「僕じゃないけどね。ヒガタ(ロボツク)がね。」
- A 「それかわかぬわねと地団駄を踏かされた。」
B 「さ、ヒガタかね。弱いからジスバシしたリベンス・スツワホで鍛えるんだよ。」
- A 「ふ～ん。中身は強いんだ。」
B 「うん、よわい、よわい。」
- A 「けつご、ごまかす部分があるんだ。」
B 「繊細さも必要だよね。」
- A 「強さと繊細さって共存できるの？」
B 「強弱は相対するけど、繊細さはどちらにもあるからね。」
- A 「人間のね。」
B 「人間の心で言って、みんな分かり合える部分だよね。」
- A 「そのこと取束るんだ。」
B 「自分と見に来てくれる人か、うまくコミュニケーションできたらうれしいからね。」
- …終わり

Pre-ex-sight NAOMI ITO (伊藤尚未)



- 1964 静岡県生まれ
- 1985 TWORK SHOP 7 OF TUKUBA (キヤチーショップ／銀座)
- 1986 第3回オムニポーツアートコンテスト 最優秀賞 (東京都美術館・京都市美術館)
- 1986 第3回日本国際美術展 (東京都美術館)
- 1987 ハイチウロゾーツアート公募展 1986 (松坂屋／名古屋・サンシャインシティアー／池袋)
- 1987 伊藤尚未個人の展覧会「展開」開催 (筑波大学学生会館キヤチー／筑波)
- 1987 第37回モダンアート展 (東京都美術館)
- 1987 07アート展「ヌーボートン展」 (西武アートフォーラム／池袋)
- 1987 クルーゾ展「メテオインスタレーション」Optical (NEOショールーム／日比谷)
- 1987 オムニポーツアート作品展「OMNI ART展」 (西武アートフォーラム／有楽町)
- 1987 ハイテクラボゾーツアート公募展 1987 (新宿NSビル・札幌・名古屋・大阪・他)
- 1988 スーツ・アカリ・チヤード伊藤尚未 (西武アートフォーラム／池袋)
- 1988 第17回日本国際美術展 (東京都美術館・京都市美術館)
- 1988 クルーゾ展「展覧会」 (筑波大学学生会館別館キヤチー／筑波)
- 1988 クルーゾ展「Optical Light Aquarium」 (豊木画廊／神田)
- 1988 青森野外彫刻展 (合瀬公園／青森)
- 1988 サ・トルック (松屋／銀座・他)
- 1988 第1回名古屋国際ビエンナーレ「ARTEC'88 未来芸術展」 (名古屋科学館展示ホール／名古屋)
- 1988 クルーゾ展「Optical DIGITAL LANDSCAPE」 (O美術館／大崎)
- 1990 第16回日本国際美術展 佳作賞 (東京都美術館・京都市美術館)
- 1990 第6回オオツエTOKYO展 1990 (VIVO／渋谷)
- 1991 個展「IN THE WELLS」 (キヤチーショップ／銀座)
- 1991 SONYビル 晴海コンテンポラリー作品展示 (SONYビル／銀座)
- 1991 第2回名古屋国際ビエンナーレ「ARTEC'91」 (名古屋科学館展示ホール／名古屋)
- 1992 「Sound Garden 4」 (オオツエTOKYO美術館／六本木)
- 1992 第21回現代日本美術展 (東京都美術館・京都市美術館・下関市立美術館)
- 1992 コミュニケーション・ワールド'92 北海道2000 テーマ展展示 (札幌)



taizo matsumura 22.8



Pre-ex-sight TAIZO MATSUMURA (松村泰三)

近年、若手作家達によるコラボレーション、あるいはアートユニットと称する共同制作・発表の機会をよくみかけるようになった。それは最近の現代美術界の作品にみるインスタレーション作品の巨大化と作品制作に関わる費用の巨額化、また表現の多様多様性などにより一人の力では成し遂げられないものを作るという意識が醸成されてきていること、あるいは共同制作からこそでき、一人ではできない表現を目指す活動が激しくなっているという原因だろう。そんな風潮がある中、ここにまた一つのアーティストユニットを結成することにしよう。かつては活動を中心にしてきた二人が、あえてその表現の可能性を試みようというのである。Pre-ex-sightは造語であるが二人の作品に対する意識の中で共通する「現象」というものをキーワードに「見える・見る」ということをもう一度考え直そうというテーマに基づいてつづらねたユニット名である。

伊藤は「見えないが存在する」ということをテーマに取組んだと言えよう。「見えないが存在する」といって能力に着目し、見えないモノ、見えない領域を見えるように、人間が認識しやしないように表現することを意識的に試みている。例えばそれは微妙な動きであったりするわけだが、それを動かしたときに、あらためて境界という見えない力の存在に気付く。その不思議さを意識してしまおうのである。伊藤は「見えないが存在する」ということを意識して感じているのである。それと対比的に植村は「見えるが存在しない」ということをテーマに作品制作に取り組んでいる。「見えるが存在しない」として光を通して人間の目に見えるように表現している。作品からするとそれは精緻な表現における残像効果を利用したものであるわけだが、光の軌跡とは何なのかというところを考えると、光の変化(運動)と時間というふたつの要素と、人間の目の働きを加えてはじめて見えるものである。植村は人間の目だけからその見える、存在しないモノの表現について考えているのである。

今回の作品はコラボレーションとして「動くオプジェ」をテーマにそれぞれの作品の延長線上で「存在と視覚」をみつめなおす導入としている。存在しているとはどういうことか、今後の活動の中で実験的な試みも続けていくつもりであるが私達自身どのような展開になるのか期待している。

- 1964 青森県生まれ
- 1966 第16回 日本国際美術展 (東京都美術館・京都市美術館)
- 1966 ハイテクラボゾーツアート公募展 1986 《空舞》 (サンシャインシティアー／池袋)
- 1967 国際光の造形展 (大塚の城／青山)
- 1967 第18回 現代日本美術展《大崎》 (東京都美術館・京都市美術館)
- 1967 IMAGES DU FUTUR'87 (モントリオール／カナダ)
- 1967 クルーゾ展「メテオインスタレーション」Optical (NEOショールーム／日比谷)
- 1967 TECHNO JAPON'87, メテオオオツエ制作 (ケルシット／スイス)
- 1967 個展「ライト・スニード」 (INAXキヤチー／京橋)
- 1968 クルーゾ展「Optical Light Aquarium」 (豊木画廊／神田)
- 1968 サ・エイヌアート展 (尾去沢アインランド／秋田)
- 1968 個展「LIGHT STREAM MACHINE」 (INAXキヤチー／広瀬)
- 1968 「光・ウカド・レカ」展 (江ノ島半島／青森EPO88)
- 1968 造形発見展「光と造形」 (ごまの城／青山)
- 1968 arts-units 日本芸術科技芸術展 (台湾省立美術館)
- 1968 現代茨城の美術展 一戦後40年の流れ (茨城県近代美術館)
- 1968 クルーゾ展「Optical DIGITAL LANDSCAPE」 (O美術館／大崎)
- 1968 造形発見展「光と造形 89」 (ごまの城／青山)
- 1968 「未来芸術コンペティション」国内公募展《優秀作品賞》 (名古屋科学館)
- 1968 個展「SCAN」 (大塚の城／青山)
- 1968 クルーゾ展「Optical ELECTRICAL SERVICE」 (青山キヤチー／池袋)
- 1991 芸術祭典・京「都市映像論」/KYOTO (大丸ビル／京都)
- 1990 個展「SPEED」 (キヤチーショップ／京都)
- 1990 個展「still」 (キヤチーショップ／京都)
- 1990 個展「simulate」 (DOCKキヤチー／大阪)
- 1992 JAPAN PAVILLON SCIENCE ART GALLERY (他) 筑波大学展示 (筑波大学展示ホール／筑波)
- 1992 個展「SECTION」 (オオツエTOKYO美術館／六本木)